

「知っている」と役立つ泌尿器病理」連載開始にあたって

近年、医療が個別化（テーラーメイド医療）の時代に入り、標的分子の免疫染色や遺伝子発現の解析など、新しい分野における病理診断の重要性が高まりつつある。それと同時にこれまでの病理診断そのものの重要性も再認識されつつある。特に泌尿器病理の中の腎腫瘍の分類は、通常の HE 染色や免疫染色のみならず、詳細な分子病理レベルでの診断が必要になりつつあるといっても過言ではない。したがって、臨床医のみならず病理医は、常に最新の情報を収集していくことが大切である。今回の「知っている」と役立つ泌尿器病理」の連載では、日常の泌尿器領域においてよく遭遇する疾患を中心に、ときには稀であるが知っておくべき重要な疾患を加えて、その病理所見を中心に毎回 1～2 症例を呈示していく。また、泌尿器科領域においては、組織診断のみならず、尿細胞診も重要な位置を占めており、必要に応じて細胞診についても盛り込んでいく予定である。

形式としては、実際に病理診断を行っている泌尿器科医や病理医が当然知っておくべき疾患概念、その臨床病理学的事項について臓器ごとに取り上げていく。最初のページで肉眼像や組織像のカラー写真を質問形式で呈示し、次のページでその写真についてどのような所見が認められるのかを詳細に解説し、3 ページ目と 4 ページ目でおのこの疾患について知っておくべき事項を簡潔に記載するという形式で進めていく。読者は最初のページの写真を見て、まず自分で診断をつけて次のページに進んでいく。次にその解説を読むことにより、自然とその疾患についての知識が整理されていくことになる。

連載する臓器は腎臓、膀胱、前立腺、精嚢、精巣、陰茎などで、泌尿器領域の臓器をほぼ網羅することになる。また、随時新しい疾患概念やトピックスなども追加していきたい。病理医のみならず、泌尿器科医にとっても日常業務に直接還元できるような実践的な内容を盛り込むことにより、研修医を含む幅広い方々が泌尿器病理に関して一層理解を深める一助となれば幸いである。

清水道生